

1学年だより

夢の宅配便

1年学年主任

水野 喜代治

チャレンジ！ NO1

昨年度、卒業生とのお別れの会で、ステージの上で「バク転」を披露しました。なぜ、「バク転」をしたかということ卒業生に、人は努力すれば何でもできることを伝えたかったからです。しかし、62年間、不摂生を重ねてきた私の老体は体重が78キロ近くまで太り、お腹は臨月を迎えた妊婦のように膨らんで見るも無残な状況になっていました。この私が「バク転」をすることは、自殺行為に匹敵するものと思えました。しかし、練習をして努力をして、卒業生の前で「バク転」を成功させる奇跡を起こせたら生徒は感動してくれると思ったのです。

ネットで体操教室を検索すると鴨宮の「トライ体操教室」のページに「だれでもバク転ができるようになります！」とキャッチフレーズが書いてありました。「これだ！」と私は体操教室に入門することを決意しました。すぐに「トライ体操教室」に相談に行きました。「バク転をしたいので教えていただきませんか？」と私は、体操教室の見るからに身の軽そうなスタッフに問い合わせました。体操教室のスタッフは、「60歳を超えた人のバク転は危険です。それに今まで例がありません。」とものすごく弱気な返事が返ってきました。「おたくの教室の名前は、トライ体操教室でしょ、トライしないとだめでしょ！」と詰め寄るとスタッフは苦笑いしながら「わかりました。でも無理しないでください。危険ですので」ということで、無理をしないという条件付きで体操教室に入室しました。夏休みの期間、週一回金曜日の限定でバク転の練習が始まりました。しばらくすると、私が「バク転」をするということの中島校長先生が聞きつけて、「水野先生、危険ですのでやめてください。命にかかわることだし、生徒も先生が怪我をしたら心配します。」と無謀なことはしないようにと注意されました。「わかりました。」と校長先生に答えました。しかし、私はすでに3年生と夏休み前に「3月の卒業式前にみんなとのお別れにバク転をします。」と宣言をしてしまっていたのです。3年生の反応も「えー！」とびっくりしながら。バク転するのを見たい。という強い期待感があるのが伝わってきました。私はどんなことがあっても「バク転」を成功させようと決心しました。

放課後、体育館でトレーニングの知識に詳しい永山教頭先生とシャトルランをすることに決めました。教頭先生のアドバイスを受けながら一緒にシャトルランに取り組み、体重を落とすことを決意したのです。78キロ近い体重を68キロぐらいまでに落とそうと思いました。体重を軽くしないと後方に回転するとき腕で体を支えることができないからです。それと倒立（逆立ち）の練習を毎日しました。逆立ちができなければ「バク転」はできなと体操教室のスタッフにアドバイスされたからです。

毎日、続けるということは本当にすごいことで、私の体重はみるみる落ちていきました。7月の夏休みから本格的なトレーニングを初めて、2月には、体重が70キロを切りました。ウエストも10cm近く細くなり、今まではいていたズボンがブカブカになって買い直すほどでした。体重を十分に落として、いよいよ2月から私は、頭から落ちる危険を覚悟して「バク転」の本格的な練習にチャレンジしました。…… つづく